

原井手（日本遺産）

4月28日、菊池川流域4市町（菊池市、玉名市、山鹿市、和水町）で申請した《米作り、二千年にわたる大地の記憶》菊池川流域「今昔『水稲』物語」が日本遺産に認定されました。菊池市の宝物が日本の宝物になりました。

日本遺産とは、地域の風土に根差した歴史的魅力や特色を通じてわが国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。

今回認定された菊池川流域の日本遺産の内容についてシリーズで紹介していきます。

原井手

広辞苑で「井手」は、「田の用水をせきとめてあるところ」と記載されています。そこから派生して、用水路の呼び名として使われています。

原井手は米作りに欠かせない水を確保するための用水路として、菊池川の最上流域の大場堰を取水口として工事が行われました。工事は元禄11年（1698）に開始され、3年後に完成。長さは約11キロで、約200ヘクタールにわたります。



原井手取り入れ口

タールの水田に水を供給しました。

水路が作られた場所は菊池市東部の丘陵地です。この水路は平野ではなく丘陵部の水田に水を供給する目的であったことが分かります。この工事で農業土木技術史上、高く評価されているのは、肥後藩最古の水路トンネルです。掘削した水路トンネルの長さは約450メートルあります。

原井手の開発に尽力したのは、惣庄屋の河原左衛門で、その功績を顕彰するための記念碑が建てられています。

男女平等社会の実現を目指して

菊池市地域人権教育指導員 稲田京子

「結婚しても、続けますか」この質問は、私が38年前、教員採用試験の面接試験で問われたものです。この問いが、男性には問われていないと知り、女性差別であることに気付いたのは、数年たったからでした。結婚や出産によって仕事を辞めざるを得ない先輩が、以前はたくさんいました。

女性が働きにくい就業環境などがまだにあります。仕事と家庭・地域生活の両立のためには、就業意欲のある女性が継続して働ける環境の整備や、育児・介護サービスの充実を図ることが必要です。同時に男性の家庭や地域への参画が可能になる社会のあり方の見直しを進めることも不可欠です。

「戦後、女性の参政権が認められ、初めての国政選挙に参政できるようになった時、私だけでなく、何人も女性が喜びのあまり涙を流して、投票所に向かいました」と話されました。今があるのは、人権感覚や政治に目覚めた人たちの並々ならぬ努力や命懸けで闘い勝ち取った権利があるからです。この権利を生かすことが重要だと思います。



熊本県人権同和政策課編 「人権研修テキスト」より

菊池夢美術館情報

問い合わせ先 菊池夢美術館 ☎ 0968 (23) 1155

絵手紙教室一年間の発表

期間 ～7月2日(日) 絵手紙教室で制作した作品を全て展示します。ぜひご覧ください。

2017 第9回癒しの里の竹細工展

期間：7月4日(火)～8月6日(日) 午前10時～午後5時 県伝統工芸館で学んだ竹サークルの会員が大小さまざまな作品を展示・販売します。期間中は体験教室も開催します。竹細工づくりと一緒に楽しみませんか。 ※体験教室は材料費 500 円。



開館時間 午前9時～午後6時 ※期間中の閉館日はありません。

わいふ一番館だより

問い合わせ先 わいふ一番館 ☎ 0968 (24) 6630

【ギャラリー】

「日本の桜、どこにでもある風景」展 Bobヒラカワ

期間：7月4日(火)～17日(日) 日本の桜。独りぼっちな桜。楽しそうな桜。女の子みたいな桜。男の子みたいな桜。春の女神がいるんな桜をプレゼントしてくれました。

「隈府小学校子どもの絵画」展

期間：7月19日(水)～30日(日) 昨年度の菊池郡市絵画展で選ばれた巡回作品を展示しています。ぜひ子どもたちの作品を見に来てください。

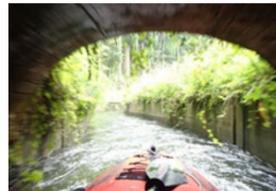
【まちかど資料館企画展】

「菊池一族歴代の墓碑展」

期間：～7月30日(日) 各時代の当主や大きく活躍した人物の足跡を墓碑とともに紹介します。

開館時間 午前9時～午後5時 ※休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

用水路活用とブランドづくり 原井手は、1701年に完成した県内でも歴史ある農業用水路です。300年以上たった今でも、河原・水源地区の約200ヘクタールもの水田を潤しています。今年、この原井手を含め「菊池川流域のかんがい施設」が日本遺産の一つとして認定されました。その原井手をカヤックで下る「イデベンチャー」は、今年で実施4年目を迎え、菊池の夏のアクティビティとして年々定着してきました。参加者の9割以上は市外（県外が4割弱）の方なので、本年度からカヤックで下る井手の水で育った米を「水源米」としてブランド化し、体験と合わせて販売する予定です。



イデベンチャー

菊池グリーンツーリズム

問い合わせ先 さくちふるさと水源交流館 ☎ 0968(27)0102

韓国発見シリーズ ⑤ 韓国には金です



日韓、結婚式文化の違い

「あたしんち」で有名な漫画家 けらえいこさんの結婚生活マンガ「セキララ結婚生活」が韓国語でも出刊され、両国の結婚文化が関心を集めているが、その違いが意外に面白い。

均祝儀は5万ウォン（約5千円）である。式場に行って祝儀だけ渡して帰る客も多く、時には口座振込みで祝儀を送ったりする。また韓国では団体写真を撮るときに暗黙のルールとして、白いウェディングドレス姿の花嫁を一番目立たせるため、ほとんどの客が暗いトーンで地味めの服を着る。客が白いトーンの衣装を着ることは礼儀ではない。

韓国ではある程度の顔見知りならほとんど招待客として招待される。参加の可否は問わず招待状を出すのが慣例だ。招待状を「まぐ」という表現を使うほどに普段親密でない知人にも招待状を渡す。それは結婚式費用を賄うためでもある。結果、結婚適齢期の知人が多いほど毎週末は結婚式に行くことになる。「今までの人のために出したご祝儀はいくらか」と考えると自分の結婚式でも大勢招待してそれまでの分を取り戻そうとする。しかし結婚式全体は30分も無いほどの短いものである。一方日本では招待客が座る席に一人一人名札を置けるといっては韓国側からみると小規模だ。式全体の進行も秩序正しく整然とした感じである。

次は平均祝儀だが、韓国の平均祝儀は5万ウォン（約5千円）である。式場に行って祝儀だけ渡して帰る客も多く、時には口座振込みで祝儀を送ったりする。また韓国では団体写真を撮るときに暗黙のルールとして、白いウェディングドレス姿の花嫁を一番目立たせるため、ほとんどの客が暗いトーンで地味めの服を着る。客が白いトーンの衣装を着ることは礼儀ではない。

次は平均祝儀だが、韓国の平均祝儀は5万ウォン（約5千円）である。式場に行って祝儀だけ渡して帰る客も多く、時には口座振込みで祝儀を送ったりする。また韓国では団体写真を撮るときに暗黙のルールとして、白いウェディングドレス姿の花嫁を一番目立たせるため、ほとんどの客が暗いトーンで地味めの服を着る。客が白いトーンの衣装を着ることは礼儀ではない。

今は国際結婚も増加している。国が違えば習慣や文化が違うことは当然である。さまざまな違いに戸惑わず、自分の幅が広がる、違いを楽しむと思うなら豊かな人生になるのではないかと思う。